

⑯ 日本国特許庁 (JP) ⑯実用新案出願公告

## ⑰ 実用新案公報 (Y2) 昭59-23203

⑮ Int.Cl.<sup>3</sup>G 11 B 3/42  
B 32 B 33/00

識別記号

序内整理番号

8221-5D  
6122-4F

⑯⑰公告 昭和59年(1984)7月11日

(全2頁)

1

2

## ⑯ヘッドシェル

⑯実願 昭53-129363  
 ⑯出願 昭53(1978)9月19日  
 ⑯公開 昭55-49315  
 ⑯⑰昭55(1980)3月31日  
 ⑯考案者 川口 昭博  
 寝屋川市日新町2番1号 オンキヨー株式会社内  
 ⑯出願人 オンキヨー株式会社  
 寝屋川市日新町2番1号  
 ⑯代理人 弁理士 佐当 弥太郎

## ⑯実用新案登録請求の範囲

両面又は片面にポリウレタン系樹脂等の損失係数大なる塗膜層1を形成し、その上面に不飽和ポリエステル系樹脂等のヤング率の高い塗膜層2の被膜を積層して形成した事を特徴とするヘッドシェル。

## 考案の詳細な説明

本考案は振動を抑制したピックアップのヘッドシェルに関するものである。

従来、ヘッドシェルの材質として、アルミニウム等の軽金属やプラスチック等の合成樹脂材料が使われて來たが、ヘッドシェル本体の振動によつて生ずる鳴きは音質を悪くするものである。従つて無共振ヘッドシェルが望まれるものであるが實際には不可能に近いものである。その為にヘッドシェル本体の裏面や表面にゴムシートを貼したり、合成樹脂を塗布して振動を抑制していた。しかしながらこれでは不十分であり、制振材として損失係数が0.1近くになるものはなかつた。従つて現在までヘッドシェル本体の鳴きを十分に抑えられないと云う欠点があつた。

本考案は上記の欠点を取除く為に考案されたもので、図面に示す実施例について説明すれば、第1図、第2図に示すごとく、ヘッドシェル3の裏

面にポリウレタン系樹脂等の損失係数が大きい塗料を塗布して塗膜層1を形成し、乾燥させた後、その上面に不飽和ポリエステル系樹脂等のヤング率の高い塗料を塗布して硬化させ、塗膜層2の被膜を積層して形成せるヘッドシェルである。本考案の制振材と従来のゴムシート制振材の損失係数の測定結果を下記の表に示すものである。アルミニウム板のテストピースに各制振材を塗布し、温度20°C、湿度62%で振動減衰率即ち損失係数を測定したものである。

	80 Hzに於て	500 Hzに於て
ゴムシート	0.0049	0.0049
エポキシ系樹脂	0.012	0.010
本考案積層被膜	0.064	0.09

上記の表に見られるように本考案積層被膜を形成すると損失係数が0.1近くになり、制振材としての効果が他の制振材と比較して格別に顯著である。

第3図はゴムシートを制振材に使用した場合、

第4図はエポキシ系樹脂を制振材に使用した場合、第5図は本考案積層被膜を制振材に使用した場合の各振動特性図で、第5図では第3図、第4図に比較して周波数特性に於て鋭度の小さいものとなつている。

実施例ではヘッドシェル3の裏面に積層被膜を塗布しているが、表面又は両面に塗布してもよい。本考案は以上に述べたように、ピックアップのヘッドシェル裏面に損失係数大なる塗膜層1と、その上面にヤング率の高い塗膜層2の積層被膜を形成すると云う巧妙な構造で振動を抑制するもので、実用効果大なる考案である。

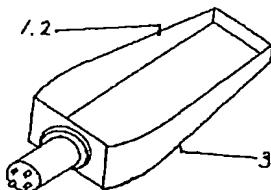
## 図面の簡単な説明

第1図は本考案のヘッドシェル外観図、第2図は要部断面図、第3図、第4図、第5図は振動特性図。

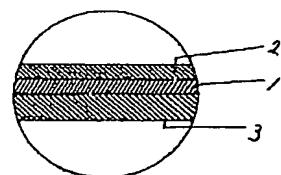
1、2は塗膜層、3はヘッドシェル。

BEST AVAILABLE COPY

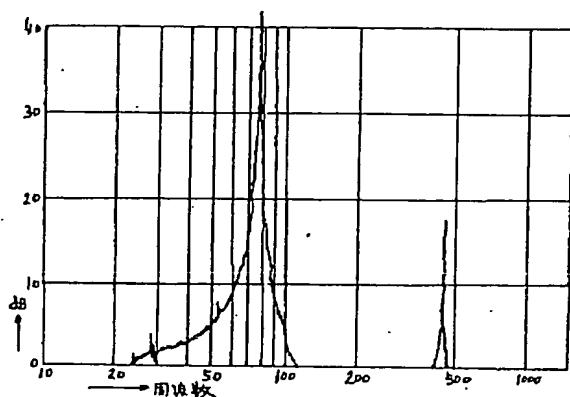
第1図



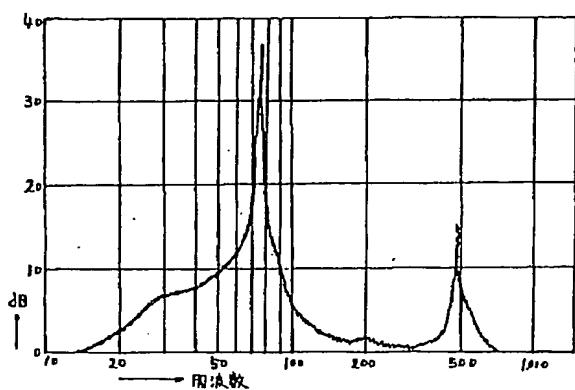
第2図



第3図



第4図



第5図

